

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520483

研究課題名(和文) インドネシア、スラウェシ島南部地域諸言語の包括的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of the Languages in the Southern Parts of Sulawesi Island of Indonesia

研究代表者

山口 真佐夫 (Yamaguchi, Masao)

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号：00191239

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はインドネシア共和国スラウェシ島南部に分布する南スラウェシ語群、カイリ・パモナ語群、ブク・トラキ語群、ムナ・ブトン語群、ウオトゥ・ウオリオ語群に属する言語の資料収集、系統研究および個別言語の研究より成り立っている。研究成果は論文5件、学会発表など11件、書籍5件として発表された。5件の書籍のうち、3件(うち1件は2巻本)は論集で、それぞれ7本、9本、21本の論文が収録されている。著者は研究代表者、研究協力者、インドネシア人研究者、韓国人研究者である。

研究成果の概要(英文)：The present study consists of the collection of linguistic data from the language groups of South Sulawesi, Kaili-Pamona, Bungku-Tolaki, Muna-Buton, and Wotu-Wolio which are spoken in the south area of Sulawesi Island in the Republic of Indonesia, the investigation of the genetic relationships of those languages, and the research into the individual languages. The findings were published in 5 papers, 11 presentations and 5 books. Three of the five books are collections of papers (one has two volumes), with 7, 9 and 21 papers included respectively. The authors are the chief researcher, research collaborators, researchers from Indonesia and researchers from South Korea.

研究分野：言語学

キーワード：インドネシアの地域語 スラウェシ島南部の地域語 スラウェシ島南部の地域語の系統 危機言語 インドネシアにおけるスラウェシ島南部の言語研究

### 1. 研究開始当初の背景

本研究で対象にする「スラウェシ島南部の諸言語」とは、いずれもオーストロネシア語族に属する南スラウェシ(Sulawesi Selatan/South Sulawesi)語群、カイリ・パモナ(Kaili-Pamona)語群、ブンク・トラキ(Bungku-Tolaki)語群、ムナ・プトン(Muna-Buton)語群、ウオトゥ・ウォリオ(Wotu-Wolio)語群の言語のことである。そしてこれらの語群の言語の多くは、消滅の危機に瀕している。

上記5語群はインドネシア共和国のスラウェシ島の南部を中心に分布している。行政上は南スラウェシ州、西スラウェシ州、中スラウェシ州、東南スラウェシ州を含む地域である。そしてインドネシアの国立言語研究所の支所は州単位で存在している。本研究と関係する支所は、南スラウェシ州の州都マカッサル市(西スラウェシ州も管轄)、中スラウェシ州の州都パル市、東南スラウェシ州の州都クングリ市にある。そして言語・語群の分布は境界線と一致しているわけではない。このため資料収集はこれらの地域を網羅して行わなければならないことになる。

研究代表者はこれまでの研究を通して上記の諸言語研究所と協力関係を構築してきた。また当該地域にある大学の教員とも協力関係を築いてきた。この協力体制に基づいて5語群の言語資料を収集し、これまでよりも精緻な研究を行うことを目指した。さらに各研究機関に、さらに研究協力者を増やし多くの資料収集が出来る体制を構築した(この点については6.研究組織、(4)研究協力者を参照)。

### 2. 研究の目的

本研究の主たる目的は、これまで明確な基準が明示されずに分類されてきた南スラウェシ語群、カイリ・パモナ語群、ブンク・トラキ語群、ムナ・プトン語群、ウオトゥ・ウォリオ語群の系統関係を研究代表者の専門である比較言語学に基づいて解明することにある。

なお本研究の副次的な目的としては、現地研究者の論文を中心に論集を発行することも含まれている。このことは現地研究者、特に若手の研究者に研究成果発表の機会を与え、現在消滅の危機に瀕している言語への関心を高める効果も期待できる。

### 3. 研究の方法

インドネシアにおいては外国人が直接現地調査を行うことは手続き上非常に煩雑であり、かつ時間を要する。研究代表者はこれまでに協力関係を気づいた言語研究機関、大学等の研究者を通して研究資料を収集した。また合法的な範囲内で実際に現地を視察も行った。

収集した資料を基に研究した成果を論文、学会発表、書籍の形で発表してきた。書籍の

形で発表する際は現地に成果を還元するため、インドネシア語で出版した。

### 4. 研究成果

#### 研究成果

#### (1)初年度(平成24年度)

##### 資料収集

インドネシアのマカッサル市、クングリ市を訪れ同地にある言語研究所、大学で研究資料の収集を行った。またマレーシアのサバ州においても研究資料の収集を行った。

##### 成果の発表

これらの資料を基に学会発表、論文の執筆を行った。特に10月1日にはマカッサル市で行われた「第2回南スラウェシの地域語国際学会」で科研の成果を発表した。

#### (2)平成25年度

##### 資料収集

インドネシアのマカッサル市、パル市、首都ジャカルタ市を訪れ同地にある言語研究所、大学で研究資料の収集を行った。特にパル市では国立タドゥラコ大学において同大学の求めに応じて教官、大学院生、学部生に対して招待講演を行った。講演の第2部において科研費と中スラウェシ州の言語資料収集がいかに重要かを説明した。

##### 成果の発表

平成25年度の成果は学会発表、論文、書籍の形で発表した。書籍は当該地域の地域語をテーマにした論集 *Fonologi Bahasa Daerah di Pulau Sulawesi Bagian Selatan* (スラウェシ島南部の地域語の音韻論) と *Morfonomik Bahasa Daerah di Pulau Sulawesi Bagian Selatan* (スラウェシ島南部の地域語の形態音韻論) としてまとめられた。論集には多くのインドネシア人研究者の論文および研究代表者自身の比較言語学に基づいた論文も収録された。

#### (3)平成26年度

##### 資料収集

インドネシアのマカッサル市、クングリ市、バウバウ市(東南スラウェシ州)、トゥーカン・プシ諸島、首都ジャカルタ市で収集を行った。バウバウ市では地元の大学を訪れ資料収集を行った。またトゥーカン・プシ諸島では北トゥーカン・プシ(North Tukang Besi)語、バジャウ(Bajau)語、国語のインドネシア語の使用状況を視察した。

##### 成果の発表

平成26年度の成果は、学会発表、論文の形で発表した。特に10月7日にクングリ市で行われた「第2回東南スラウェシの地域語学会」では科研の成果も含め、東南スラウェシの地域語の研究史と将来についての発表を行った。論文「セレベス上位語群と南スラウェシ語群の関係」、「スラウェシ島における言語分類」では、本研究の主たる目的である南スラウェシ語群、カイリ・パモナ語群、ブ

ンク・トラキ語群、ムナ・ブトン語群、ウォトゥ・ウォリオ語群を中心とした系統関係について論じた。

#### (4)最終年度(平成27年度)

##### 資料収集

インドネシアのマカッサル市、クンダリ市、ジャカルタ市で研究資料の収集を行った。特にジャカルタ市では研究協力者の助力で、国立科学院の図書館で資料収集することができた。また地域語の使用状況を視察するためブギス(Bugis)語地域のパレパレ市、マカッサル(Makassar)語使用地域のジェネポントを訪れた。さらに話者数が数百人とされているスラヤル島のライヨロ(Laiyolo)語地域、マカッサル語の方言が独立した言語が研究者の見解が分かれる同島のスラヤル(Selayar)語/方言地域も視察した。

##### 成果の発表

最終年度の成果は学会発表、論文、書籍の形でまとめられた。学会発表「マカッサル語、ブギス語再考」ではこれまでに諸説があるマカッサルグループとブギスグループに属するとされている言語について比較言語学に基づき「再考」を行った。学会発表「インドネシア、スラウェシ島のサルアン・バンガイ語群 系統上の位置づけ」では、本科研で収集した資料も加えスラウェシに分布する非フィリピン系の語群の系統について発表するとともにサルアン・バンガイ(Saluan-Banggai)語群、トミニ・トリトリ(Tomini-Tolitoli)語群の研究が重要であるという、今後の研究の方向も示唆した。

書籍では18人のインドネシア人研究者、韓国人研究者、研究代表者自身の論文を掲載した2巻本の論集*Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Bagian Selatan dari Segi berbagai Bidang Linguistik*(言語学の諸分野から見たスラウェシ島南部の地域語)を出版した。さらに4人の現地研究者による*Khazanah Sastra Daerah di Sulawesi Bagian Selatan*(スラウェシ島南部の地域語文学の宝典)を編纂した。また2013年に科研費(インドネシア・スラウェシ島南西部諸言語のデータベース構築)(平成21~23年度)で出版したビブリオグラフィ*Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Bagian Selatan Indonesia*「インドネシアにおけるスラウェシ島南部の地域語研究」に本科研で収集した資料を加えた第2版を出版した。近年各言語研究所が単行本、雑誌を出版しているが、それらを収録し当該地域の言語研究成果を知ることが出来るように編纂した。

#### (5)総括

4年間の研究を通して主たる目的である系統問題についての研究も含め十分な成果を上げたと思われる。また多くの現地研究者が論集に論文を載せることにより地域語についての関心を高めるといった意義があった。

この点は論集を出すたびに執筆者が増えたことでも判る。

本研究を通して新たな問題点も見ついている。本研究で扱った5語群に加え、サルアン・バンガイ語群、トミニ・トリトリ語群も含めたスラウェシ島の存在するすべての非フィリピン系の語群についての研究の必要性である。この点は今後の研究課題としたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

山口真佐夫、「地域語が消滅する状況、維持される状況 インドネシア共和国、東南スラウェシ州の言語を例として」、言語文化学会論集、査読有、44号、2015、61-83

山口真佐夫、「スラウェシ島における言語分類」、言語文化学会論集、査読有、第42号、2014、33-86

山口真佐夫、「セレベス上位語群と南スラウェシ語群の関係」、インドネシア言語と文化、査読無、20号、2014、133-152

山口真佐夫、「スラウェシ島中・南部における言語状況」、言語文化学会論集、査読有、41号、2013、95-122

山口真佐夫、「南スラウェシおよびその周辺言語における形容詞の重複」、言語文化学会論集、査読有、39号、2012、111-137

[学会発表](計11件)

山口真佐夫、「インドネシア、スラウェシ島のサルアン・バンガイ語群 系統上の位置づけ」、言語文化学会第29回大会、2015年12月12日、長崎大学(長崎市)

山口真佐夫、「マカッサル語、ブギス語再考」、第46回日本インドネシア学会研究大会、2015年11月14日、京都外国語専門学校(京都市)

山口真佐夫、「地域語が消滅する状況、維持される状況 インドネシア共和国、東南スラウェシ州の言語を例として」、言語文化学会第28回大会、2015年3月21日、四天王寺大学(羽曳野市)

Yamaguchi, Masao、"Bahasa Daerah Sulawesi Tenggara: Sejarah Penelitian dan Masa Depan"、Kongres II Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Tenggara、2014年10月7日、クンダリ市(インドネシア共和国)

山口真佐夫、「スラウェシの非フィリピン上位語群」、言語文化学会第27回大会、2013年12月15日、京都女子大学(京都)

山口真佐夫、「セレベス上位語群と南スラウェシ語群の関係」、第44回日本インドネシア学会研究大会、2013年11月10日、摂南大学(寝屋川市)

Yamaguchi, Masao、"Sejarah Penelitian Bahasa Indonesia/Melayu sebelum Selesai

Perang Dunia II; Palu dan Proyek Penelitian Bahasa Daerah”, Tadulako 大学招待講演、2013年9月2日、パル市(インドネシア共和国)

山口真佐夫、山口玲子、「科研によるスラウェシ島南部の言語研究」、村山七郎記念日本言語研究会第1回研究会、2013年8月10日、長岡京市生涯学習センター(長岡市)

山口真佐夫、「スラウェシ島南部諸言語のインドネシアにおける研究 現状と新しい傾向」、インドネシア諸語の記述研究:その多様性と類似点 2012年度第4回研究会、2013年3月5日、東京外国語大学(府中市)

山口真佐夫、「スラウェシ島中・南部における言語状況 現状と問題点」、言語文化学会第26回大会、2012年12月8日、阪南大学(松原市)

Yamaguchi, Masao, "Penelitian Bahasa Daerah di Sulawesi Selatan dan Barat", Kongres Internasional II Bahasa-bahasa Daerah Sulawesi Selatan, 2012年10月1日、マカッサル市(インドネシア共和国)

〔図書〕(計5件)

Yamaguchi, Masao, Hokuto Publishing Inc., *Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Bagian Selatan di Indonesia (edisi kedua)*, 2016, xix + 179

Yamaguchi, Masao(編) Hokuto Publishing Inc., *Khazanah Sastra Daerah di Sulawesi Bagian Selatan*, 2016, ix + 189

Yamaguchi, Masao(代表編集者、著者)、Zainab(編集協力者)、Cho Tae Young(編集協力者)、Yamaguchi Reiko(編集協力者)、Hokuto Publishing Inc., *Penelitian Bahasa Daerah Pulau Sulawesi Bagian Selatan dari Segi berbagai Bidang Linguistik (2 jilid)*, 2016, xiii + 217; xiii + 190(第1巻197-217)

Yamaguchi, Masao(代表編集者、著者)、Hanna(編集協力者)、Cho Tae Young(編集協力者)、Hokuto Publishing Inc., *Morfonomik Bahasa Daerah di Pulau Sulawesi Bagian Selatan*, 2013, xi + 208(187-208)

Yamaguchi, Masao(代表編集者、著者)、Adri(編集協力者)、Cho Tae Young(編集協力者)、Hokuto Publishing Inc., *Fonologi Bahasa Daerah di Pulau Sulawesi Bagian Selatan*, 2013, xi + 138(117-138)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口真佐夫(Yamaguchi, Masao)

摂南大学・外国語学部・教授

研究者番号: 00191239

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号:

(4) 研究協力者

ジャカルタ

Mustakim(教育文化省言語庁インドネシア語普及課長)

Yeyen Maryani(元言語発展・建設局事務局長)

南スラウェシ州・東南スラウェシ州

Hasina Fajrin(南スラウェシ州・西スラウェシ州言語研究所研究員)

Nurhayati(ハサヌッディン大学文化学部教官)

Ratnawati(南スラウェシ州・西スラウェシ州言語研究所研究員)

Zainab(南スラウェシ州・西スラウェシ州言語研究所所長、元中スラウェシ州言語研究所所長)

Zainuddin Hakim(元南スラウェシ州・西スラウェシ州言語研究所所長)

中スラウェシ州

Adri(中スラウェシ州言語研究所所長、元南スラウェシ州・西スラウェシ州言語研究所所長)

Deni Karsana(中スラウェシ州言語研究所所長研究員)

Ferry Rita(国立タドゥラコ大学教官)

Siti Fatimah (中スラウェシ州言語研究所所  
長研究員)

Thamrin (中スラウェシ州言語研究所研究員)

#### 東南スラウェシ州

Aris Badara (国立ハルオレオ大学教官)

Bambang Subiyanto (インドネシア科学院教  
授)

Firman A.D. (東南スラウェシ州言語部研究  
員)

Hanna (国立ハルオレオ大学教授、元東南ス  
ラウェシ州言語部所長)

Heksa Biopsi Puji Hastuti (東南スラウェ  
シ州言語部研究員)

Muh. Nasir (元東南スラウェシ州言語部所長)

Sandra Safitri (東南スラウェシ州言語部所  
長)

#### 周辺地域

Sukardi Gau (ゴロンタロ州言語部研究員)

#### 日本

山口玲子 (Yamaguchi, Reiko : 京都産業大学  
及び摂南大学非常勤講師)